広報展示室 Koho Gallery

第26回

初代広重没後150年記念特別展
初代広重と2代広重の諸国名所絵展（後期）
―六十余州名所図会と諸国名所百景―

２代広重の「諸国名所百景」（大判85枚未完　安政６年（1859）４月～文久元年（1861）９月改印　版元：魚屋栄吉）の制作期間は３年５ヵ月。この作品は初代広重が亡くなってから７ヵ月後の安政６年４月の改印からはじまっています。２代広重の襲名を祝うように出版された作品です。江戸の広重ファンは、広重の再来を歓迎し、「六十余州名所図会」に匹敵する作品を期待したことでしょう。版元は彫りや摺りにこだわる魚屋栄吉で「名所江戸百景」を出版したことでも知られています。２代広重は初代広重が使用していた画室で同じ種本から図様を借用し、初代広重同様に視覚的な空間表現の演出、四季、天候、時刻の自然の変化を組み込み、見応えのある景観に変身させ、広重の得意な抒情的（じょじょうてき）な作品に仕上げ、鑑賞者に旅への憧れを誘いました。

図は、横浜が安政５年（1858）に開港し、翌年６年３月から太田屋新田15,000坪を突貫工事を行い３ヵ月で埋め立て、その場所に新吉原と同様の遊郭街を造りました。岩亀楼は品川宿の「岩槻楼」の主人岩槻屋佐吉が造った遊郭で同年11月に完成します。建物の建築面積は約2,660㎡、庭は約670㎡、建物の内部は異人館と倭人館に分かれ、天井からはシャンデリアが飾られ、柱は朱に染められ、まるで蜃気楼か竜宮城のような内装だったといいます。『横浜奇談』（菊苑老人著　文久３年）の中に「岩亀楼の家造りは、蜃気楼のごとくにして、あたかも龍界にひとしく、　文月の燈籠、葉月の俄踊、もん日もん日の賑わひ、目をおどろかし、素見ぞめきは和人、異人打ちまじりて、昼夜を分かず」と記されています。しかし慶応２年（1866）11月岩亀楼の近くの豚屋から出火した火事が飛び火し焼失し、その後再建されることはなかったようです。場所は神奈川県横浜市中区横浜公園（横浜スタジアム）あたり。図は手前に岩亀楼の入口と満開の桜樹の中道、遠景には富士山が見えています。

二代歌川広重　諸国名所百景　武州　横浜岩亀楼
版元：魚屋栄吉　個人蔵

那珂川町馬頭広重美術館　学芸員 市川信也

【会期】後期　11月１日（木）～12月２日（日）
【ミュージアムトーク（展示解説）】
　11月17日(土）午後1時30分～　当館学芸員
【開館時間】　午前９時30分～午後５時まで
　（但し入館は４時30分まで）

ミニギャラリー

馬頭広重美術館ギャラリーで開催された写友「那珂川」写真展。５人の25作品の中から那珂川町の作品をご紹介します。

朝焼け　杉本　静さん（片平）

第33回NTT東日本児童画コンクール
県教育長賞受賞
テーマ：私の考えたインターネットの世界
鈴木康太さん（谷川小４年）

No.26　平成19年11月10日号　●編集／企画財政課　☎0287-92-1114　Fax0287-92-1316
●発行／那珂川町役場／栃木県那須郡那珂川町馬頭409　URL http://www.town.tochigi-nakagawa.lg.jp

R100 PRINTED WITH SOY INK
この印刷物は古紙配合率100%の再生紙、植物性大豆インキを使用しております。